令和７年度豊かな森を育てる府民税
事業成果及び評価結果

令和８年 10 月

京都府農林水産部林業振興課

目次

１. 令和６年度豊かな森を育てる府民税評価結果 2

２. 令和７年度豊かな森を育てる府民税事業成果 6

Ⅰ 森林の整備及び保全 8

１森林防災機能強化事業費 8

（１)地域とつくる安心・安全な森整備事業 8

（２)流木等流出防止対策事業 8

（３)山地災害防止対策事業 8

（４)京の木づかい施設整備事業 8

２豊かな森づくり総合対策事業費 12

（１)次世代につなぐ森づくり事業 12

（２)ふるさとの里山林保全活動推進事業 12

（３)京の森林文化を守り育てる支援事業 12

（４)豊かな森の恵み創造事業 12

Ⅱ 森林資源の循環利用 17

１ひろがる京の木整備事業 17

Ⅱ 森林の重要性の啓発 20

１豊かな森林継承事業 20

Ⅳ 地域振興計画推進事業費 23

Ⅴ 豊かな森を育てる府民税市町村交付金事業 28

１ 令和７年度豊かな森を育てる府民税　評価結果

京都府農林水産部林業振興課

京都府では、災害防止など森林の持つ多面的機能を維持するため、平成２８年度から「京都府豊かな森を育てる府民税」(以下、府民税)を導入しており、第２期となる令和３年度から、毎年度、事業の進捗や効果を評価・検証しているところです。

この度、令和７年度の府民税事業についての評価にあたり、有識者会議を開催し、「府の事業評価の妥当性、改善点や要望、今後の展開」などについて意見をいただきました。

【有識者会議の評価結果について】

（1）総括的な評価

＜事業全体に対して＞

- 地域ニーズに応じて事業が実施されており、到達目標も概ね達成していることから、府の自己評価は妥当である。
- 府民税の必要性に対する理解が深まるよう、森林が持つ多様な機能や資源の循環利用の重要性など、府民に対し解りやすい方法で普及啓発していくことが必要である。

＜各事業に対して＞

- 地域ニーズに沿って実施している危険木の除去などの防災対策は、流木災害の未然防止に繋がる効果的な取組として評価できる。
- 局地的な豪雨が頻発する中、森林が持つ多面的機能を向上させるため、継続的な森林の整備及び保全を進めていくことが必要である。
- 主伐・再造林の促進にあたっては、森林の境界を明確にすることが重要であり、林業事業体などに対し、林相界等の森林関連情報の共有を図ることが必要である。
- 建築物に対する木造・木質化への支援は、森林資源の循環利用を進める上で重要な事業であり評価できる。
- 府内産木材の利用を一層促進するためには、府民に対し森林資源の循環利用の重要性を啓発し、木材利用に対する意識をさらに醸成していくことが必要である。
- 森林の重要性についての評価は、イベント等の参加者数に加えて、参加者にアンケートを実施するなど、森林に対する理解度を把握することが必要である。

(２) 府による事業評価と分野別の主な意見

【Ⅰ　森林の整備及び保全】

事業評価	有識者会議の主な意見
○ 流木の原因となる危険木の除去や風倒木跡地の整理・植栽等を実施し、森林の防災機能の向上を図るとともに、地域住民への周知や聞き取りを通じて危険箇所の把握に努めた。 ○ 事業の実施に当たっては、地域住民による人家周辺の危険木の調査・撤去を支援することで、防災意識の向上に繋げるとともに、地域ニーズに即した取組ができた。 ○ 地域住民による人家近くの危険木の現地調査や撤去の計画・実行を支援するとともに、防災意識の向上を図った。 ○ 鳥獣害対策や保育施業に費用がかかるなど、再造林が進みにくい状況の中、主伐・再造林一貫作業、低密度植栽などの低コスト施業が普及したことにより、森林所有者の理解を得て主伐・再造林に取り組む林業事業体が増えてきたため、昨年度より再造林への補助実績は増加し、62%の達成率となった。	○ 山地災害危険地区の整備は優先的に進める必要がある一方、危険地区外でも災害が発生する可能性があるので、地域住民の要望を踏まえ事業を実施していく必要がある。目標については100%を超えて達成しており評価できる。 ○ 森林防災機能強化事業について、事業内容と指標の整合性が気になるので、対応関係は整理した方が良いと考える。また、地域住民による対策といった細かいニュアンスが消えてしまうのはもったいないので、府民税事業の指標としては設定してもよいかと思う。 ○ 森林資源情報や地形情報を活用して林業適地のゾーニングを行って、主伐・再造林を実施するとともに、それ以外の奥地など条件が悪い森林では針広混交林化を進めるなど、森林整備の方向性を示した上で、事業を進めていくことが重要であると考える。 ○ ふるさとの里山林整備事業について、今後は、府からの提案型にすることや、既存の事業体をこの事業に誘い出すといった思い切った新たな制度設計が必要ではないか。また、実施に当たってはインセンティブについても検討する必要があると考える。

【Ⅱ　森林資源の循環利用】

事業評価	有識者会議の主な意見
○ 住宅や民間施設の木造・木質化や木製品導入への支援に加え、優良事例の表彰や広報により、府民が京都の木を身近に感じる機会を創出することができた。	○ 取組件数や府内産木材利用量が増えており、評価できる。 ○ 木造建築の設計ができる者は少ないので、設計士に対する支援は良い取組である。 ○ 府内産木材の利用促進に向け、優良な木造建築物の紹介や、設計者向けの研修などを通じて、木造建築に携わる技術者を育成していくことが必要であると考える。 ○ 新設住宅建築戸数が右肩下がりであるため、今後は非住宅分野において府内産木材の利用を伸ばしていく必要があり、まずは公共建築物において府内産木材利用の取組を進めていくことが重要と考える。

【Ⅲ　森林の重要性の啓発】

事業評価	有識者会議の主な意見
○ 展示と木工体験等のワークショップを組み合わせるとともに、集客性の高い場所でイベントを実施することで集客効果を高め、森林整備活動への参加の動機づけや木材利用の促進につなげるきっかけを創出できた。	○ 森林が持つ多様な機能や森林資源の循環利用の重要性などを、府民に対し解りやすい方法で普及啓発を行い、森林に対する理解を深めていくことが必要である。 ○ イベントを効果的に実施するためには、参加者へのアンケートなどにより、森林の重要性に関する理解度を把握するとともに、府内産木材の利用につながっているかを検証することが重要である。

【Ⅳ　広域振興局枠】

事業評価	有識者会議の主な意見
○ 各広域振興局が主体となって先導的な取組を実施し、地域の森林・林業・地域産木材利用への理解促進に向けた取組を推進できた。	○ 地域課題に即して実施していることは理解できるが、本庁主体で実施するⅠ～Ⅲの府民税事業との関係性が分かるよう、表現を検討いただきたい。

【Ⅴ　市町村交付金】

事業評価	有識者会議の主な意見
○ 放置里山林や竹林対策など既存制度では対応が困難な分野に活用されるなど、地域ニーズに応じたきめ細やかな整備・保全が進められた。 ○ 公共施設を中心とした木製品導入や木質化が進み、地域材利用の拡大に寄与するとともに、木育等を通じた地域の子供への普及啓発等に向けた取組を推進できた。	○ 引き続き役割分担を明確化して取り組まれたい。

（３）　指標と目標達成率

使途分野	指標	R7年度 実績値／目標値	R7年度 達成率	R7年度までの実績値 ／5年間(R3-R7)の目標値
Ⅰ 森林の整備及び保全	1-①山地災害危険地区の整備	27箇所／20箇所	135%	173箇所／100箇所
	1-②渓流における災害の未然防止	35箇所／20箇所	175%	195箇所／100箇所 ※内、山地災害危険地区（130箇所）
	1-③災害防止のための森林整備	235ha／200ha	93%	1080ha／1000ha ※効果が発揮される流域面積
	2-①再造林への補助実績	74ha／119ha ※	68%	306ha／445ha ※内、府民税実績（32ha）
	2-②花粉症対策苗木の生産量	12.0万本／14.0万本	86%	32.4万本／31.5万本 ※R4年度から苗木生産を開始
	2-③里山林の整備	49箇所／60箇所	81%	265箇所／300箇所
	2-④里山学習の実施	2箇所(3箇所)　　※( )はR6実績		
	2-⑤地域文化と関わる社寺の森等の整備	33箇所／30箇所	110%	187箇所／150箇所
Ⅱ 資源の循環利用	①府民が京都の木を身近に感じる環境づくり	●建物型 住宅タイプ　141件 1,960㎥（132件 1,963㎥） 非住宅タイプ 11件　 360㎥（120件 1,619㎥） 優良事例表彰・パンフレット・HP作成など ●木製品型 導入支援タイプ　57件（45件） ※( )はR6実績		
Ⅲ 森林の重要性の啓発	①森林の多様な機能についての府民理解の促進（イベント参加者）	757人／600人	126%	3,344人／3,000人

【参考 有識者会議について】

（１）有識者会議の開催 令和８年７月21日

（２）有識者会議の委員

氏　名	分　野	役　職　等	
愛甲（あいこう） 政利（まさとし）	木材利用	(一社)京都府木材組合連合会 副会長	
川勝（かわかつ） 健志（たけし）	学識経験者 (税制)	京都府立大学社会科学部 教授	
栗山（くりやま） 浩一（こういち）	学識経験者 (環境経済)	京都大学大学院農学研究科 教授	（座長）
佐藤（さとう） 啓子（けいこ）	府民協働	(一社)ガールスカウト京都府連盟　事務局長	
長島（ながしま） 啓子（けいこ）	学識経験者 (森林計画)	京都府立大学大学院生命環境科学研究科 教授	
三好（みよし） 岩生（いわお）	学識経験者 (防災関係)	京都府立大学大学院生命環境科学研究科 准教授	
森井（もりい） 一彦（かずひこ）	森林組合	京都府森林組合連合会 代表理事専務	

（五十音順・敬称略）

２　令和７年度豊かな森を育てる府民税　事業成果

分野	事業名等	指標
Ⅰ森林の整備及び保全	１　森林防災機能強化事業	
	(1)地域とつくる安心・安全な森林整備事業	①山地災害危険地区の整備 ②渓流における災害の未然防止 ③災害防止のための森林整備
	(2)流木等流出防止対策事業	
	(3)山地災害防止対策事業	
	(4)京の木づかい施設整備事業	
	２　豊かな森づくり総合対策事業	
	(1)次世代につなぐ森づくり事業	①再造林への補助実績 ②花粉症対策苗木の生産量 ③里山林整備 ④里山学習の実施 ⑤地域文化と関わる社寺の森等の整備
	(2)ふるさとの里山林保全活動推進事業	
	(3)京の森林文化を守り育てる支援事業	
	(4)豊かな森の恵み創造事業	
Ⅱ森林資源の循環利用	ひろがる京の木整備事業	①府民が京都の木を身近に感じる環境づくり
Ⅲ森林の重要性の啓発	豊かな森林継承事業	①森林の多様な機能についての府民理解の促進（イベント参加者）
Ⅳ	地域振興計画推進事業	－
Ⅴ	豊かな森を育てる府民税市町村交付金事業	－

【事業実績額内訳】

分野	事業名等	実績額（千円）
Ⅰ　森林の整備及び保全	1　森林防災機能強化事業費	315,000
	(1)地域とつくる安心・安全な森林整備事業	9,554
	(2)流木等流出防止対策事業	108,500
	(3)山地災害防止対策事業	125,900
	(4)京の木づかい施設整備事業	70,900
	2　豊かな森づくり総合対策事業費	90,241
	(1)次世代につなぐ森づくり事業	31,815
	(2)ふるさとの里山林保全活動推進事業	25,744
	(3)京の森林文化を守り育てる支援事業	28,801
	(4)豊かな森の恵み創造事業	3,881
計		405,241
Ⅱ　森林資源の循環利用	ひろがる京の木整備事業	106,877
Ⅲ　森林の重要性の啓発	豊かな森林継承事業	14,900
Ⅳ　広域振興局枠	地域振興計画推進事業費	10,000
Ⅴ　市町村交付金	豊かな森を育てる府民税市町村交付金事業	199,967
計（当初予算額744,000千円）		736,986

※端数処理の関係で各事業の実績額の計と合計が一致しない場合があります

※本実績額は、事務費等を含むため、各事業ページの事業成果の事業費とは一致しません